

# 日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート レポート

< 第34号 >

\*被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から2016年5月までで通算191回となりました。

2016年7月

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

この春、桜の季節から新緑の季節にかけて、2度にわたって福島県南相馬市を訪れました。

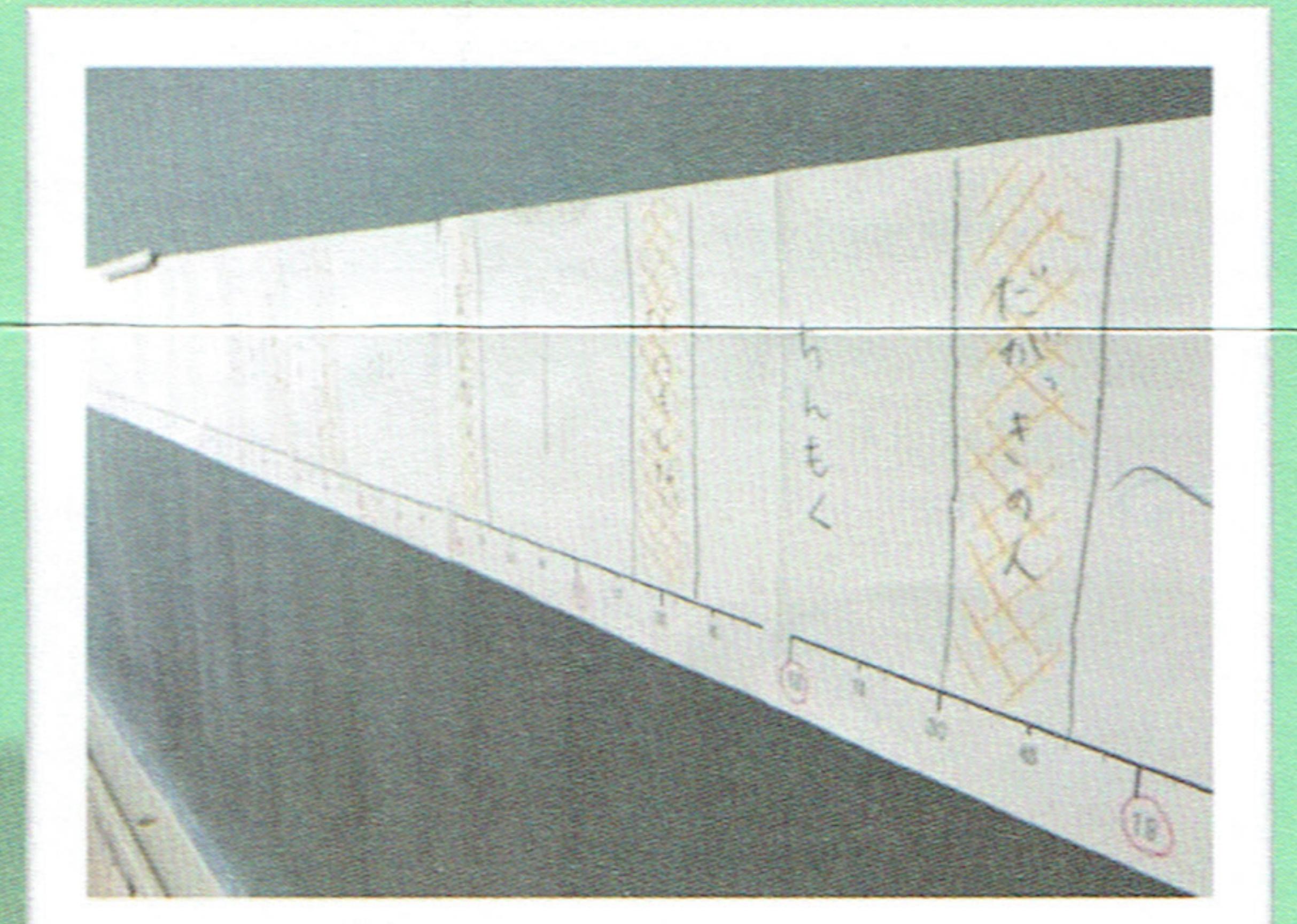
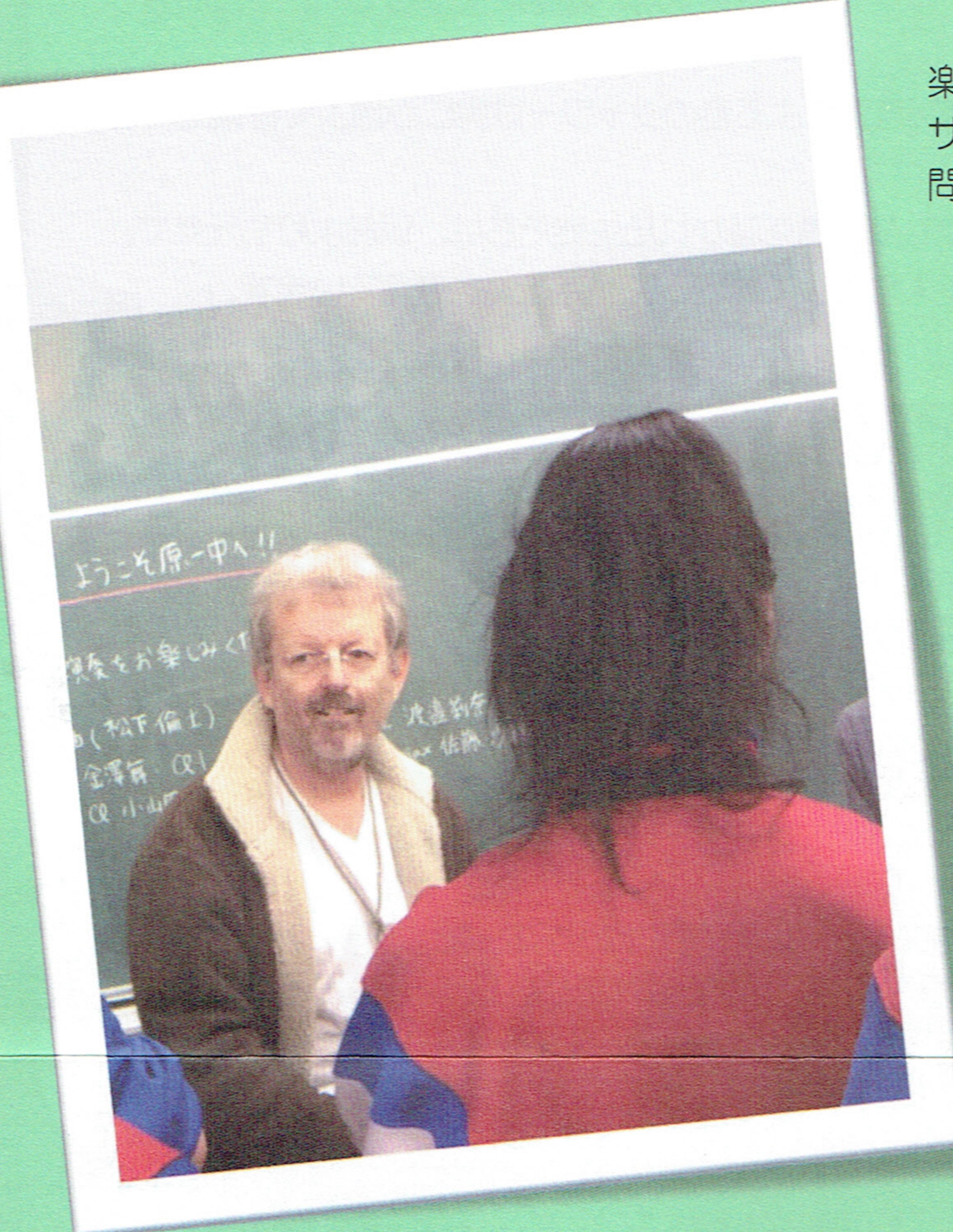
5月は、「被災地に音楽を」初の試み、日本フィル コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサー氏によるワークショップを開催しました。

5月6日～7日

「ジョン・ケージと同じように作曲したよ。」

生徒も先生も大興奮 音楽によるコミュニケーションと表現の新しい世界を発見

ゴールデンウィークの間を縫って、4月に引き続き南相馬市立原町第一中学校を訪れました。いつもは管楽器奏者とクリニックに訪れるところを、今回は、コミュニケーション・ディレクターのマイケル・スペンサーとワークショップファシリテーターを務める楽員4名(Vn 佐藤、Va 中川、Vc 大澤、Tb 伊波)が訪問。全国大会へ出場するほどの実力を誇っていた吹奏楽部ですが、震災後生徒が激減。部員も6割程度まで減っています。顧問の先生から、「今の子は受け身で、霸気がない。いわれたことしかしない。気が利かない。。。」という話を聞き、ワークショップという音楽創造の場で、技術だけではない音楽を通じた学びの機会を提供することとなりました。ワークショップの目的は、参加者がコミュニケーションを深めながら体験を通して、学ぶことです。今回の二日間は、ジョン・ケージの《musicircus》を題材にワークをしていきます。まずは初めて訪れた日本フィルメンバーたちへ、アンサンブルを聴かせてもらいました。全国大会で金賞を受賞するほどの実力です。マイクさんも感心しっぱなし。とはいえ、演奏に一生懸命な彼ら。マイクさんからジャズの演奏家のことや楽器の歴史など音楽のエッセンスが子供たちに与えられていきます。いよいよ、本題のスタート。皆で集まりマイクさんによるジェスチャーが始められます。音の無い世界を想像したことがありますか?と。子供たちに想像させ、問い合わせながら「世界の音楽」の講義が行われました。初日最後の15分、グループに分かれて、ある文字(形)が書かれた紙を日々に渡し、それを体で表現して他のグループに伝えてください、という課題が与えされました。発表してみると色々な表現がありましたが、実はすべて同じ文字(形)だったのです。表現の多様性が示されます。



翌日、二日目は、音楽作りに没頭します。前日の最後に行なったように、与えられた課題の表現を考え、サイコロでスコアを創っていきます。生演奏に合わせてダンスも体感しました。表現とはなんだろう?と考えながら各自の作品を仕上げました。最後は全員で集まり一斉に演奏して、皆で一つの作品を作り上げました。「音」の瞬間、「リズム」の瞬間、「声」の瞬間、そして「沈黙」の瞬間。輝きに満ちた笑顔が弾けました。

